

災害、困窮など、困難な状況を抱えるこども達に対する多職種連携によるこども包括支援 ～あたたかな見守りの輪へ向けてできること～

座長：田中 和樹（あおぞら共同法律事務所）

西岡 侑子（NPO法人 子育て支援はぐはぐそのままでいいよ）

SY5-3

多職種・多機関と共におこなう妊産婦・こどもの支援～医療ソーシャルワーカーの立場から～

尾角 裕美

国立病院機構金沢医療センター 医療ソーシャルワーカー

私の勤務する金沢医療センターは554床（精神科病床44床）の急性期病院であり、政策医療であるがん、血管病、小児周産期、身体合併症をとともう精神疾患、救急及び災害医療を特徴として地域から求められる医療を展開し、治し、生活を支える医療を提供することを目標としている。医療ソーシャルワーカー（以下MSW）5名は妊産婦・乳児～高齢患者と家族・地域を対象として多職種・多機関と連携しながらソーシャルワークをおこなっている。当院MSWが妊産婦・こどもの支援で大切にしていることは個別支援のためのアセスメント、多職種による連携、ソーシャルワークをつないでいくことである。当院では妊産婦やこどもを支援するため多職種で構成する虐待対策部会・委員会が活動している。数年の準備期間を経て2013年から活動を開始した。メンバーは小児科医師、産婦人科医師、精神科医師、医療安全看護師長、助産師、小児科看護師、精神科看護師長、医事専門職、MSWである。当時は診療報酬に直結しない活動を急性期病院で組織に理解してもらうことは容易ではなかったが、多職種のチーム力で立ち上げることができたと分析している。目の前にいる妊産婦・こどものことは人ごとではない、自分達の問題だと考えた個人のパワーの結集であった。部会ではこどもだけではなく、特定妊婦に関すること、障害者・高齢者虐待に関すること、DVに関することについて個別症例について報告・相談し、緊急時も臨時部会を開催し対応方法を決定している。各職種が抱えるジレンマなども共有し、妊産婦・こどもの理解を深める機会となっている。病院には生活困窮、家族またはパートナーとの関係、虐待、DV、孤立、セクシャリティなど多くの課題を重層的に抱えたあらゆる年代の患者が来院する。妊産婦・こどもも含めて過去に受けた虐待の影響をうけながら生活している患者に出会う機会も多い。MSWは想像力を膨らませながら心理・社会的なアセスメントをおこない、多職種と共に活動している。急性期病院でできることの限界はあるが、できることを丁寧に多職種と共に取り組んで、つなげていきたい。

SY5-4

地域からつながる重層的こども見守り支援体制の推進について

前田和歌子

金沢市こども未来局 児童家庭相談室

令和7年3月、金沢市は今後5年間のこども・子育て支援施策の指針となる新たな計画「金沢こどもまんなか未来プラン」を策定した。本プランは、「こども・若者の幸せな未来をみんなで創るまち金沢」を基本理念に掲げており、6つの基本方針のひとつである「困難を抱えるこどもと親を社会全体で見守り支えるまち」の実現に向けては、困難を抱えるこどもや家庭に早期に気づき、適切な支援につなげていくために、身近な地域でのこどもの居場所づくりの推進や、関係機関との連携強化を図ることとしている。

私の所属する児童家庭相談室は、このような困難を抱えるこどもや家庭の支援を担当している。児童家庭相談室には、子育て家庭の伴走支援を行う「子どもソーシャルワーカー」や、ひとり親家庭の自立支援を担う「母子・父子自立支援員」、養育費確保やこどもに関する様々な法律相談を担当する弁護士職員などが所属しており、それぞれの職種がその専門性を生かして、子育て家庭に対して包括的な支援を行うとともに、地域や各種支援団体、企業など、様々な主体と密に連携し、地域から切れ目なくつながる重層的なこども見守り支援体制の構築を推進している。

重層的なこども見守り支援体制は、3層構造となっている。第1層は、子育て家庭の身近な生活圏としており、こども食堂や学習支援教室などの「こどもの居場所」による見守りや、地域の拠点となる場所で食材などを配布することにより、支援の必要な家庭を発見する「拠点型子ども宅食」の活動などがこれにあたる。第2層は、第1層よりももう少し広い範囲で行われる、こどもの生活支援を行うNPOなどの団体の活動を想定している。食材などの提供を通して、アウトリーチによる見守りを行う「子ども見守り支援事業」など、行政の施策ではカバーしきれない対象者に対する柔軟な支援が期待される。第3層は、児童家庭相談室や児童相談所、福祉保健センターなどの市の相談機関が担う。

また、このような多機関連携を一層強化するため、こどもの生活を支援する団体等が参加する官民連携の「金沢こども応援ネットワーク」を組織しており、団体間の情報共有や研修会を実施するとともに、支援企業とのマッチングなども行っている。

本シンポジウムにおいては、このような重層的なこども見守り支援体制が有効に機能した事例について報告する。